東奥日報社提供

東　奥　日　報
2021年（令和3年）8月12日（木曜日）（19）

平内

ハクチョウ観察「価値高い」

旧浅所小児童 55年間の記録

八工大・田中教授が講演

平内町教育委員会は4日、同町山村開発センターで生涯学習講座「ひらないカレッジ」を開き、動植物の生態に詳しい八戸工業大学の田中義幸教授が「浅所小学校　白鳥観察記録と浅所海岸の環境」と題して講演した。

浅所小学校では1956（昭和31）年から55年間にわたり、同町浅所海岸に飛来するハクチョウの羽数や生息していたエリアなどを児童が記録してきた。約50冊に上る記録を同町白鳥を守る会がデータ化し、田中教授が論文に仕上げ、英文の学術雑誌に掲載された。

講演は浅所小学校閉校から10年目の節目として開催され、町民ら18人が聴講した。田中教授は講演で「浅所海岸は遠浅で水質がきれいなため（ハクチョウが食べるとされる）コアマモが生息しやすい環境。生物と環境はセットで記録することが重要だが、生物の観察記録は難しい」と話し、観察記録の学術的価値の高さについて説明した。

また、会場には浅所小学校が残した観察記録を用意。田中和芳さん(65)は50年以上前に自身で書いた記録を見つけ「懐かしい。海岸で先生が手をたたくと、白鳥が一斉に寄って来たのを覚えている。観察記録が論文に載ったと知って驚いたし、うれしい」と話した。

（小松廉）

ハクチョウの観察記録の学術的な価値について話す田中教授㊧

※「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」